

第4回 ふくしま元気トーク まとめ



【開催概要】

日時	令和2年2月1日（土） 午前10時30分～正午		
テーマ	女性が輝けるまち福島市		
場所	コラッセふくしま 4階多目的ホール		
出席者	(1) 高野さおりさん (2) 竹田有理さん (3) 宮崎恵美さん (福島市)	(4) 齋藤幸子さん (5) 石山純恵さん (6) 岡理恵子さん 木幡市長	(7) 三浦春奈さん (8) 林克重さん (9) 坪井大雄さん

【1 市長あいさつ】

本日は「女性が輝けるまち福島市」をテーマに、各分野で活躍されている女性の方、そして、女性の活躍を応援する企業の代表の方にお集まりいただきました。本当にありがとうございます。今、女性の活躍が至るところで求められています。何故かというのは、私が言うまでもないですが、一つにはこの少子化の状況の中で、労働力として絶対的に足りなくなってきて、もっともっと女性の皆さんには各地域の労働市場に出ていただかなければならないという量的な考えがあります。一方で決して量だけの話ではなく、私自身は以前から社会を良くしていくうえでは、女性の皆さんにその能力を活用して活躍いただかないと日本は良くならない、地域は良くならないと考えています。特に企業や役所、団体などの組織は、これがいかにどうかは別として、現状では男性がその中核を担っているケースが非常に多くあります。しかし、社会生活の面では誰が主役になっているのかと言えば、私は男性より女性だと思っています。それは、男性はどちらかという仕事にどっぷり浸かっている面があって、これ自体が良くないのですが、現状そうなっています。ところが、実際は女性の皆さんが主役というか、むしろ意思決定権を持っていると思っています。女性の皆さんには、これまで男性がかなり占めていたところを、あるいは、この社会の接点のところに出てきていただいて、その力を発揮していただくことが、経済的にも社会的にも大変効果があると思っています。少子化時代の中で、現在、いろいろな子育て支援策を進めていますが、普通に女性の皆さんが活躍していけるような社会にならないと、この少子化問題もなかなか解決しないと考えています。その点では、この分野にこだわって進めているつもりです。市役所の実態を言うと、例えば、審議会などのメンバーをみても男性が多く、なかなか今までの構図を崩せないところがあるので、女性の皆さんにメンバーに入っていただくよう指示をしているところです。

本日は、第一線でいろいろな活動をされている方、どちらかと言えば男社会で大変な建設関係の方、消防で活躍されている方にも参加していただきました。女性が暮らしやすい社会というのは、誰もが暮らしやすい社会になると思いますので、多様な面から貴重なご意見をいただきますようお願い申し上げます。

【2 主な発言内容】

(1) 自身や女性の活躍に関する取り組みについて

- 日進堂印刷所では女性の活躍する委員会が発足されています。昨年は女性の力も欲しいという他企業様のお手伝いをしていこうということで、外部に向けた「j o s h i f u l l (ジョシフル)」という、123名の女性が集まるプロジェクトチームを立ち上げました。
- 多角的な支援やリフレッシュの場を提供できるよう、母親向けの託児付サークル「F-mam」を創設し、女性が輝き見聞を広げ、自分自身のために真剣に取り組む時間と場所を提供しています。また、海外生活などの経験を生かし、福島市の魅力発信、子育て世代や将来を担う子どもたちが地元へ愛着を持ち、自信を持ってこの土地に暮らす気風を形成する一助になればと思い活動しています。
- 母親になった経験から、「ここに行けば子育ての悩みも解決する」「助けてもらえる」という場所を作りたくて「ポレポレ」を作りました。女性がいろいろなライフイベントを経験しなければいけないからこそ、まずは1人の人間として尊重される社会をつくっていきたいという意味でこの活動をしています。

- まちづくりの活性化として、年に何回か駅前でのイベントを主催しています。福島を安全安心を県外、日本全国に発信したいという思いで行っています。ハンドメイドを仕事にしたいという女性の方も増えているので、その方たちの後押しもしていきたいと思っています。
- 女性活躍という意味では、経団連の招聘事業でノルウェーの経団連の女性リーダープロジェクトや市内某銀行の女性活躍プロジェクト立ち上げのアドバイザーなど、女性が頑張っていけるような取り組みを行っています。
- ふくしま建女会は、福島県建設業協会会員企業に勤める女性経営者と女性技術者で構成されていて、女性の視点から見たさまざまな課題解決に向け、働く女性のネットワークをつくり、自由に活動を行うことを目的に取り組んでいます。
- 平成15年に福島市の女性消防吏員として初めて採用されました。現在、消防職員約260名中女性は3名。女性の採用に力を入れて広報活動を始めています。消防士として消火活動や救命士として救急業務に携わっています。
- 私の会社では、企業文化として女性が働きやすい社風を築いてきたという思いがあり、これからもさまざまな女性の活躍する場面、基本的には人が活躍できる、幸せに働くことができる会社になりたいと思っています。
- 商工会議所では、女性の活躍に対してどのような取り組みをしているのかとなると反省点があります。全国的には商工会議所としていろいろな施策を行っているようですので、皆さんの話を聞かせていただき、商工会議所の施策に落とし込んでいけたらと思っています。
- 女性のタクシードライバーは、全国的に見ても数パーセント台ですが、女性だけのタクシー会社もできているようです。最近、若いドライバーが増えているのは、工夫次第で自分の時間に合わせシフトを組めるということが少しずつ理解されてきていることが要因だと思います。

市長

- 私は消防大学で全国の消防の幹部養成の校長をやっていました。何年か前の目標だったと思いますが、女性消防職員の割合を5%にするというのが全国的な目標でしたが、本市は、ようやく1%と遅れているので一生懸命採用を進めています。
- 女性だけのタクシー会社まではできなくても、女性ドライバーとはっきり分かるような、例えば、色が異なったタクシーにするというのも一つのアイデアかもしれません。あまり男女別にするのもどうかと思いますが、女性は安心ですよ。

(2) 女性への配慮、女性目線について

- 好きだからハンドメイドを始めたという女性の方は多いです。この方たちが個人で創業するため、女性に対しての創業の心構えや方法、そこまで辿り着くまでの段階などの支援策として、専門の講座をつくっていただきたいです。ただ、行政の方たちが考える講座は、私たち女性が考えられないぐらいのレベルから始まるものがあるので、全く知らない人に対してのレベルの講座で、きっかけづくりができるようなシステムを考えていただけたらうれしいです。
- 以前、女性のための起業塾を行った際の事例ですが、行政だけが広報紙などで周知するだけではなく、商工会議所からも投げ掛けてもらうのも必要です。ただし、投げ掛けるだけでは人は集まらないので、みんなが集まれる時間帯、参加しやすい時間帯をいろいろと考えて、口コミで広げてもらう。ターゲットを絞ることで少ない人数ですが、確実に成果につながると思います。
- 男職場で長年働いているので慣れてしまい、逆に割り切って仕事ができるので、余り不便を感じなくなっています。不便な点はトイレ問題です。仕事を始めたときは簡易トイレに入れず、コンビニで借りていました。今は臭いが上がってこない簡易トイレや女性専用トイレが出来てきたので、良くなってきていると感じています。ただ、現場に女性一人の場合、現場管理の点から遠慮して男女一緒のトイレで我慢してしまいます。これから入ってくる若い子たちには、そういう思いをさせたくないと思っています。
- 出産を終えて、常に着ている活動服がどんどん横に広がりきつくなってきて、それを男性職員にサイズを上げてくださと言うのが少し心苦しいところがありました。また、以前はシャワー室も男女一緒だったという消防署もありました。今は女性と男性が分かれているなど、ここ10年ぐらいで目まぐるしく働きやすい職場に変わってきています。

- 福島市内には、子育て支援センターがたくさんあるから上手くいっていると思われがちですが、支援センターという箱物があっても、そこを仲介する人がいなければ、ちゃんとながれなかったりします。全国統計では、支援センターなどに行けない子育て世代は、全体の60~70%いると言われていています。そういう人たちが家に籠れば籠るほど、虐待や躁鬱からの自殺などに発展してしまうので、そこに支援を届けることが必要だと思っています。
- 家庭における男性の待遇も変わっていかなくてはいけないと思っています。そういった意味でサポートする男性側の意識も変わっていかなくてはならないと思います。子育て系のセミナーや講座などで、子育ての心構えなど、そういった学びの場を提供していただければと思います。
- 私の会社は、職員の60%が女性で全体の半分が女性管理職です。我々中小企業は、社長がいいねと言えばそれはできるわけです。そんな自由度をもっと上げなくてはいけないと考えています。学ぶ女性は自分で学びます。本人の学ぶ姿勢がないと、最終的に上手く育っていかないというところもあります。社員の中にも素晴らしい能力のある方もいるので、できるだけ自由度の高い職場をつくりたいと思っています。
- 商工会議所として、女性向けのセミナーを取り組まなければならないと思っています。例えば、時間の設定にしても、自分たちの勤務時間内で段取りしやすい時間などを考えてしまうのが正直なところでした。セミナーに参加しやすい時間帯が間違いなくあるので、まずは参加しやすい企画にしていきたいと思っています。

市長

- 農業関係でも研修の機会をつくってほしいという話が出たことがあります。農業の機械操作は、女性の方だとごく簡単なものしかないのですが、研修を受ける機会を新たに設けたところですが、結局申し込みはありませんでした。この研修も、もしかすると開催時間の設定が良くなかったのですかね。
- 活動の支援策を広く届けるためには、お母さんたちの連絡手段での口コミをいかに上手く使うかということだと思います。
- 市役所は女性の活躍という点では、女性管理職の割合が7.6%と非常に少ないです。よく政治家がアドバルーン的に女性登用などと言っているケースがありますが、私は一種のアドバルーン的に進めるのはどうかと思っています。女性登用で不足しているのは、やはり経験する機会が足りなかったと思っています。これまでの男女間みたいなのがあり、女性が経験する機会ができていない。管理職に上がるまでにトレーニングしないと、例えば、いきなり係長から課長に上げられません。そういう意味では、多様な経験値を上げていくというか、トレーニングすることが大事だと思っています。多少なりともアフターマティブアクションみたいなものも一部必要だろうと思っています。そういう実態があるので、男女全く平等ではなくて、女性だけの研修も実施するよう指示しています。市役所には、市職員を退職した特別職の代表監査委員がいますが、パイオニアとして女性職員に対する研修や相談役などをお願いしていて、その方の経験を皆さんに共有してもらっています。

(3) 女性の活躍などのポイントについて

- 昔は育休取得後に復帰すると部署が変わることがあり、結婚すると退職するということが長年続いていました。今は結婚して出産しても部署が変わらないという流れが徐々に出てきて、ようやく育休も100%に戻ってきていますし、時短休を取ったりするなど安定しています。
- 女性自身の意識もかなり問題があると思っています。同じ給料で責任だけくなら、このままでいいという方が非常に多いです。30人規模の会社では、女性側の意識がまだ追いついていません。その中で辞めていく方がいるのは仕方ないことだと思います。そうしなければ会社はもたないし、働き方改革が進んでいったら、社長をやる人がいなくなると思います。
- 女性として子育てや育児があって、ライフステージの変化によって仕事の終了時間も変化してくると思います。そういった様々な選択の幅があること、ニーズに合った時間の働き方は大事だと思います。子育てで一旦仕事を離れて、子育てに手が掛からなくなれば、就労時間も増やしていける、自信を持った仕事の仕方ができるようになればいいと思います。

- 個人で生業をつくろうという気持ちの方が多いです。今から起業したいという方たちの気持ちが萎えないよう、市役所でもいいですし、女性に特化した起業支援や電話相談室などで、アドバイスいただけるような機会があるといいと思います。
- 行政では女性に特化した起業支援の相談スキルがないので、アドバイスすることは難しいと思います。商工会議所や、私も中小企業のOBになるわけで、我々も若い方に任せるようになれば、新しい受け皿をつくらなければならないと思います。例えば、我々経営者側からアドバイスをしていくような新しい形ができるといいのかなと思います。
- アドバイスする機会を設けることについては、我々商工会議所がしっかりワンストップで受け、相談に応じるという体制づくりが必要だと思います。

市長

- 市内企業の女性管理職の登用率が17.2%で、全国平均14.9%よりも上回っています。市役所の場合は、基本的に休んだところに復職します。数年単位で異動になるので、その時に職場が変わるだけで、結婚したから異動とか待遇が変わることはないです。
- 市役所でアドバイスするような機会を設けることについては、大きな組織ではなかなかできないです。仮に行政が取り組むことになったとしても、実際に行政が行うわけではなく、それに一番近い人たちをお願いして行うこととなります。これはまさに林さんがおっしゃっており、我々にノウハウがないからになります。一方で、個人で経営しようとなれば、書類の書き方などは電話一本でいいかもしれませんが、本当に立ち上げるとなれば、安易に進めるよりも、しっかり相談しながら進めていかなければ駄目だと思います。

(4) その他

- 私の子どもは札幌市で就職しましたが、何故福島市で就職しないのと聞いたら福島市より都会だからと言われました。もっと若者が集まるようなまちづくりができればいいなと思っていますし、私も建設業なので協力できたらいいなと思っています。
- 子育て世帯に対しての給付金があります。子育てに使ってくださいということで給付されていると思いますが、現金で渡してしまうと、本当に子育てに使っているかどうかわかりません。何かクーポンなど、子育てに使える権利として配布してもらえるといいと思います。いろいろなサービスがあって、それを選べるようにしていくのがクーポンの魅力だと思っています。
- 高校生の授業では、地方創生政策アイデアコンテストというのがあり、1人1つずつ課題を持って研究することになります。地域の課題とコラボして、一緒に研究をすることで市政にも反映できるのかなと思いました。まちづくりを考えるときには、なるべく多くの方に、まちづくりに関わってもらう機会を設定していただきたいと思います。
- 高校生が勉強する場所がないという話をよく耳にします。ダイユーエイトMAXの4階に勉強する場所がありますが、試験前などは特に混雑しています。10年、20年先の福島市の将来を担う子どもたちの教育に関して、勉強できる場がもう少し欲しいと思っています。

市長

- 福島市では子育て応援世帯手当で年1万円支給しています。これは今年度限りという形になります。市では、子ども・子育てに関する新しい計画を作成していますが、私自身は子育て施策のワンステップ上の段階に入りたいと思っています。
- クーポン制度にすることで、行政が非常に辛いのは、そういうものを進める場合は、質の補償をしなければならなくなります。ちなみに、幼児教育・保育の無償化で、政府は最低限度の基準を満たしていない認可外も対象にしようとしていました。ところが、市役所が認めれば、いろいろな人がここは大丈夫だろうということになってしまいます。そうなると、市がそこまで補償できるのかとなると体制が非常に厳しくなってしまいます。先程お話しいただいたいろいろな子育てのニッチなサービスを対象にすることは、行政としてもいいとは思いますが、このようなサービスもいろいろなやり方がありますので、本当にお母さんたちのためになるのか、こういう質の補償をするのは大変だと思います。

●駅前交流スペースについては、できるだけご意見は伺いたと思います。一方で、経営的な部分が入ってくると、スピードを持って決めていかなければなりません。そういう面のバランスを取りながら、いろいろな意見を伺いながら進めていきたいと思ひます。

●高校生の勉強場所についてはよく言われています。高校生たちはどこ行っても場所を見つけて勉強して、こむこむでも勉強していますね。ダイユーエイトMAX内のアオウゼは、今回指定管理になりましたので、指定管理者として市と違った民間ニーズを踏まえて、勉強専用の場所を設けたりしているようですね。公共施設もいろいろ見直ししているのて、そこは図書館建設も早くしたいと思ひています。

【3 まとめ】

この福島という社会で女性ももっともっと活躍していただいて、男女ともに輝けるまちにしていかなければいけないと思ひています。そのためには、本日も皆さまからいろいろなご意見をいただきましたけれども、一部分だけではなくて、いろいろな幅広い面で取り組まなければならないと思ひます。まだまだ、意思決定ということでは男性が多いこともありますが、女性のリーダー役として活躍されている皆さまには、市や商工会議所などにご意見を遠慮なくお寄せいただけると大変ありがたいと思ひております。そして、一緒に共に輝ける福島市を創っていきたくと思ひます。本当に本日はありがとうございました。

参加者の感想

●和やかに話し合ひができる雰囲気がとても良くて時間管理も良かったです。多方面の方の意見が聞けて勉強になりました。

●たくさんの市民の方々に福島市のことは自分事と捉えていただけるように、関わって頂く機会を増やして頂きたいです。

●直接市長を交えた意見交換は、とても有意義でした。

●パネラーからの意見を今後どう生かすのか生かされたのか未来が楽しみです。

●異業種の女性（若い）と支援する企業、商工会議所との接点は、とても有意義だったと思う。（企業人と行政（消防）の方もいたのは良かった。）さらに充実したものにしていくためには、「テーマ」を細分化、深堀して、そのテーマのみについて意見交換が必要だと感じる。そういう意味で今回の「女性が輝けるまち福島市」はとても幅広すぎると思える。

